比叡山延暦寺一乗止観院は、本朝五岳の其一つにして、王城鬼門に当れば艮峯とも号す。はじめは日枝山と書しを、桓武天皇の御宇延暦年中に、伝教大師と叡慮を等し、帝都鎮護として根本中堂を建営し給ふより、比叡山と改らる。〔又別名ありて、天台山、我立杣、艮岳、鷲峯、台嶺、叡嶽、大日枝、小日枝等の号あり〕

比叡山中堂建立のとき

新　古　阿耨多羅三藐三菩提の仏達我立杣に冥加あらせたまへ　伝教大師

愛宕山の一の鳥居より日枝山を見れば、駿河の富士を見るにひとし

とて、都のふじといふ。

拾　遺　我恋のあらはにみゆる物ならば都のふじといはれなましを　読人しらず

東塔〔止観院と号す、西塔、横川を合せて三塔といふ。東塔の東谷に十一坊、西谷に十一坊、南谷に十二坊、北谷に十二坊あり〕

根本中堂〔本尊は薬師仏、開基伝教大師の作なり〕一乗戒壇堂〔釈迦文珠弥勒を安置す、嵯峨天皇弘仁十四年の造立にして、慈覚大師入唐のとき、漢土の五台山の土を荷担してかへり、戒壇の下に埋給ふ〕文珠楼〔五台山をうつして、本尊には文珠菩薩を安置す〕大講堂〔本尊は大日如来、梵天帝釈文珠を安置す、深草天皇の御願なり。大会執行のとき勅使参向の堂なり〕前唐院〔慈覚大師の廟堂なり〕千手堂〔千手観音を安置す〕山王院〔智証大師の本房にして、山王神

常に影向の地なり〕千手井〔又辨慶水ともいふ、西塔武蔵坊千手堂に千日参籠す、此水を毎日閼伽とせしより此名あり。平相国清盛熱病の時此水を石船に湛て沐すといへり〕浄土院〔伝教大師の廟堂なり。最澄と号す、俗姓は三津氏、江州志賀郡の人なり〕

西塔〔宝幢院と号す、西塔の東谷に九坊、南谷に十坊、北谷に十二坊あり、浄土院を下りて谷川を堺とす〕

法華堂〔本尊は普賢菩薩なり〕転法輪堂〔本尊は釈迦、文珠四天王、承和元年勅によつて延秀円澄造立す〕常行堂〔阿弥陀仏を安置す、寛平五年静観僧正建立なり〕椿堂〔如意輪観音を安置す、山門建立以前、聖徳太子此山に登て勝地を求て此本尊を安置す。又椿の御杖を伽藍の傍に立置れけるが、後に枝葉茂りて大木となる。年経て荒廃に及び今小堂あり〕宝幢院〔恵亮和尚の廟塔なり〕相輪■〔王城の東北にあたる印にして、伝教大師の銘あり、俗に鬼門柱といふ。高さ四丈五尺、九層あり、十一の宝鐸を懸る、弘仁十一年歳次庚子九月十一日とあり〕青龍寺〔黒谷にあり、本尊文珠、十一面観音浄名居士を安置す、法然上人此所に住す、木像あり、俗に元黒谷といふ〕

横川〔楞厳院と号す、十四坊あり〕

中堂〔本尊聖観音は慈覚大師の作、脇士は毘沙門不動なり〕慈恵大師廟〔釈良源といふ、永観三年正月三日入寂す、此ゆゑに元三大師といふ、俗姓は木津氏にして江州浅井郡の人なり。大師の影像飯室横川御闔に就て安置す、都鄙の詣人日々に多くありて霊維新なり〕四季講堂〔五部大乗四季に講讃あり、故に名とす〕大師堂〔村上天皇の御願にし

て、慈恵大師の開基なり、弥勒如意輪不動山王を安置す〕観音堂〔華表岡又不二門といふ、願諸来向者皆不二門の額は慈覚大師の筆なり、首楞厳院に掲る〕慈忍和尚廟〔横川小聖と号す、九条殿師輔卿の十男なり〕飯室〔横川の別所なり、宝満寺といふ不動堂あり〕安楽院〔恵心僧都住給ふ所なり、本尊阿弥陀仏恵心の作、又恵心の像を安置す。院内に菩提樹あり、これは恵心僧都の製作し給ふ往生要集を宋国へ贈られしとき、四明の知礼禅師披見して随喜し、報酬のため此菩提樹一株を渡す、恵心これを植給へば、日々に枝葉繁茂しけり。元亀の兵火に滅しける所、十有九年を経て此樹に忽枝芽出て再生す、山門是より再興に及ぶ、故に後鑑の樹と謂べし。○当院に叡桓僧都のすませ給ひ、法華経一万部精誦ありし時、釈迦普賢の尊像忽然として壇上に顕へ感見すといふ〕

無動寺〔或は無幢寺に作る、此所に坊舎十三坊あり〕

不動堂〔相応和尚の作なり。染殿の皇后に霊鬼の障碍ありし時、相応和尚此不動尊に祈り給ふ、日を経ずして霊鬼退散す、故に染殿后より此所を御建立ありしなり〕大乗院〔慈鎮和尚住給ひし所なり。此院のうへに墳墓あり。又本願寺の祖親鸞上人もこゝに住給ひ、天台の学問ありしなり。当院は山中第一の絶景なり。山王七社の中客人宮は此谷の守護神なり〕

続後撰　　慈鎮

鷲の山有明の月はめぐりきて我立杣の麓にぞすむ

辨財天〔竹生島より此地に白蛇と化して影向ありしなり。宮のうしろに影向石あり。親鸞聖人弘法の為此宮に祈誓あり

しとぞ〕雲母坂不動堂〔本尊不動明王は伝教大師の作なり、雲母寺の額は石川丈山の筆とぞ〕南光坊〔戒壇堂の傍にあり。慈眼大師と号す、日光御門主の御本坊なり〕

当山名勝

四明嶽〔叡岳第一の峰なり。雲母坂より登りて右に小径あり、山上に石仏を安置す、是山城近江の堺なり。絶頂より快晴の日は、西海の淡路島四国の海路幽に見ゆるなり〕満土混論辻〔大講堂を東へ下りて四辻あり、これをいふ。伝教大師在世の時、大黒天出現の地なり、大黒堂あり。是より南へ行けば、南谷無動寺の通路なり。東へ行ば、東谷より坂下へ下るなり。宝地坊証真の旧跡花王院あり、北へ行ば根本中堂の参路なり〕登天石〔東塔の南谷遺教坊の門前にあり。此ほとりに法性坊尊意僧正の旧跡あり。菅神此石を踏で登天したまふといふ〕常光坊〔此寺の前は絶景にして、中秋の月佳境なり。又此地に楓多くありて紅葉の時も眺望あり〕三ツ子坂〔戒壇院の後より右へ下るなり〕青龍石〔西塔千手院の大嶽に大巌あり、龍の口をあきたる形に似たり。此前に至れば人多く死す。千手院の静観僧正此石頭に座して一七日加持し給へば、忽然として黒雲覆ひ山谷震動し、岩石くだけ散しなり。夫より祟なしとぞ。宇治拾遺に見えたり〕三尊石〔横川に至る道の傍に大岩三ツあり、此所魔境といふ〕五百羅漢石〔道より西のかた谷の向ふに岩石幾許ならびあり、むかし五百の賢聖習定の所なり〕阿字休息峰〔路の傍に切石あり、北嶺回峯の行者王城加持修行の所なり〕釈迦多宝仏〔これ山城近江の境なり。西は八瀬の里へくだる路あり、東は横川へいたる〕波母山〔又小比叡ともいふ。横川

へ行左の方山の半腹に大巌あり、神代に白髭明神釣を垂し所なりとぞ〕寒嵐嶽〔華表岡より西の高峰をいふなり〕華表岡〔又不二門といふ、是より横川の分地なり〕阿弥陀峯〔鳥井の下に立て西を臨ば、二峰あり。昔恵心僧都弥陀来迎を拝せし所なり。又峯越弥陀ともいふなり〕蟻塚〔路のかたはらに石垣を築小径にあり。相応和尚此道を通りし時、大雨頻に降て前路を崩隔す、時に山蟻数万集りて暫時に路を開て往来をなさしむ、和尚奇異の思ひをなして、此所に其印を築て蟻塚と号す〕龍池〔又赤池ともいふ。慈覚大師結界して龍神を潜居すといへり、今も雨を乞ふ時はこゝに祈るとぞ〕護法石〔中堂の東の下にあり〕如法水〔中堂の閼伽井なり〕独鈷水〔又寂静水ともいふ。慈恵大師鑒開の水、華蔵院のうちにあり〕衣掛石〔和労堂より八王子にいたる小径にあり〕五男三女降石〔同所にあり〕樺生谷〔横川より八王子に至る道にあり〕戒心谷〔飯室へ下る行路にあり〕定家卿墓〔横川へ至る道のかたはらにあり、伝に言、定家卿此山に登臨し、つねに閑寂なるを愛し給ふ。石の小塔あり〕

家　集　踏だにもえにしなるてふ此山の土となる身のたのもしき哉　定　家

奈良坂〔横川より坂下へ下る道をいふ、春日明神影向の地なり〕蛇池〔雲母坂を登りて、左の路のかたはらに窪きところあり。今は水涸て池なし〕水飲〔雲母坂の中途にあり。むかし地蔵堂ありて脱俗院と号す。真如堂の阿弥陀仏山上薬師堂よりはじめて遷仏ありし所なり〕音羽谷〔雲母寺の南にあり、むかし瀧ありて比叡山音羽瀧といふ。今は山崩て瀧なし〕

ひえの山なる音羽の瀧を見てよめる

古今　落たきつ瀧の水上年つもり老にけらしな黒き筋なし　忠岑

権中納言敦忠が西坂本の山荘の瀧の岩にかきつけらる

拾遺　音羽河せき入ておとす瀧津瀬に人の心の見えもする哉　伊勢

ひえにのぼりて帰りまふてきて詠る

古今　山高み見つゝ我こし桜花風はこゝろにまかすべらなり　貫之

玉葉　世を祈るわが立柚の岑晴て心よりすむ秋の夜の月　前大僧正源恵

ひえの山に二月五番とて花など作る事侍ける、その花づくしせんとて、人の山によびのぼし侍ければ、むかし此山にて物などならひける事を思ひ出て

拾遺　いつとなく鷲の高ねに澄月の光をやどす志がのから崎　法橋性憲

新勅　大嶽の峰吹風に霧晴てかゞ見の山に月もくもらぬ　慈円

風雅　三の岑二の道をならべ置て我立柚の名こそ高けれ　慈順